

アルコール、薬物依存症患者の現状

アルコール・薬物関連精神障害の分類 (ICD-10)

F1x.0 急性中毒

F1x.1 有害な使用

F1x.2 依存症候群

F1x.3 離脱状態

F1x.4 せん妄をともなう離脱状態

F1x.5 精神病性障害

F1x.6 健忘症候群

F1x.7 残遺性障害および遅発性の精神病性障害

F1x.8 他の精神および行動の障害

F1x.9 特定不能の精神および行動の障害

F10.-アルコール

F11.-アヘン類

F12.-大麻類

F13.-鎮静剤あるいは睡眠剤

F14.-コカイン

F15.-カフェインを含む他の精神刺激剤

F16.-幻覚剤

F17.-タバコ

F18.-揮発性溶剤

F19.-多剤使用および他の精神作用物質

これまで、アルコール・薬物依存症の患者に対する医療の主たる役割は、急性期への対応と精神病状態への対応であった(囲い部分)。

ICD-10における依存症候群の診断基準 (F1x.2)

ある物質あるいはある種の物質使用が、その人にとって以前にはより大きな価値をもっていた他の行動より、はるかに優先するようになる一群の生理的、行動的、認知的現象。依存症候群の中心となる記述的特徴は、精神作用物質（医学的に処方されたものであってもなくても）、アルコールあるいはタバコを使用したいという欲望（しばしば強く、時に抵抗できない）である。ある期間物質を禁断したあと再使用すると、非依存者よりも早くこの症候群の他の特徴が再出現するという証拠がある。

(ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン, 1993)

ICD-10における病的賭博の診断基準 (F63.0)

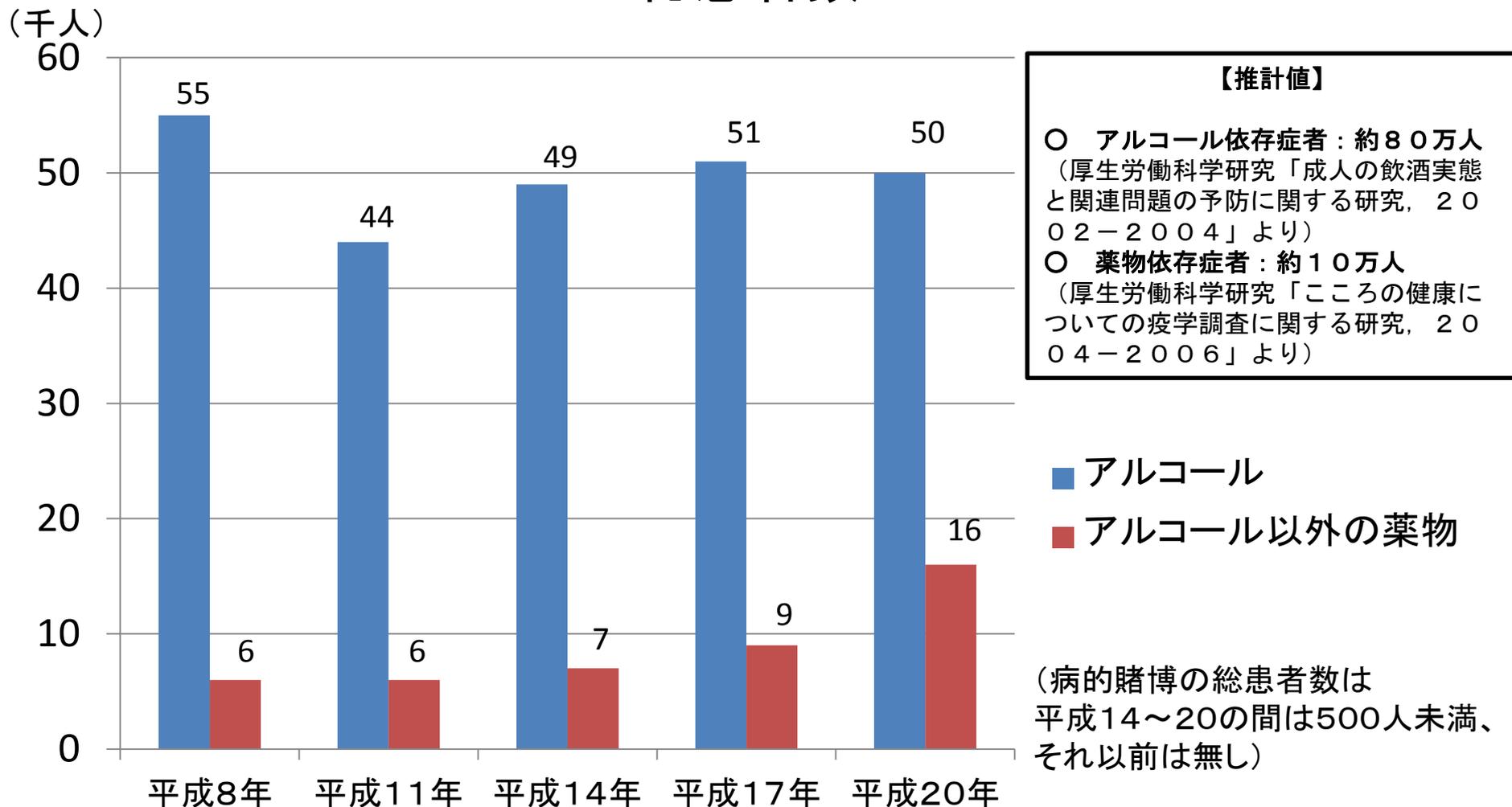
この障害は、社会的、職業的、物質的および家庭的な価値と義務遂行を損なうまでに患者の生活を支配する、頻回で反復する賭博のエピソードから成り立っている。

この障害を有する人びとは、自分の仕事を危機に陥れ、多額の負債を負い、嘘をついたり法律を犯して金を得たり、あるいは負債の支払いを避けたりすることがある。患者たちは、賭博をしたいという強い衝動を抑えることが困難であり、それとともに賭博行為やそれを取り巻く状況の観念やイメージが頭から離れなくなると述べる。これらの没頭や衝動は、生活にストレスが多くなると、しばしば増強する。

この障害はまた強迫賭博と呼ばれるが、この用語は、行動が専門的な意味では強迫ではないし、強迫神経症に関連した障害でもないのであまり適切でない。

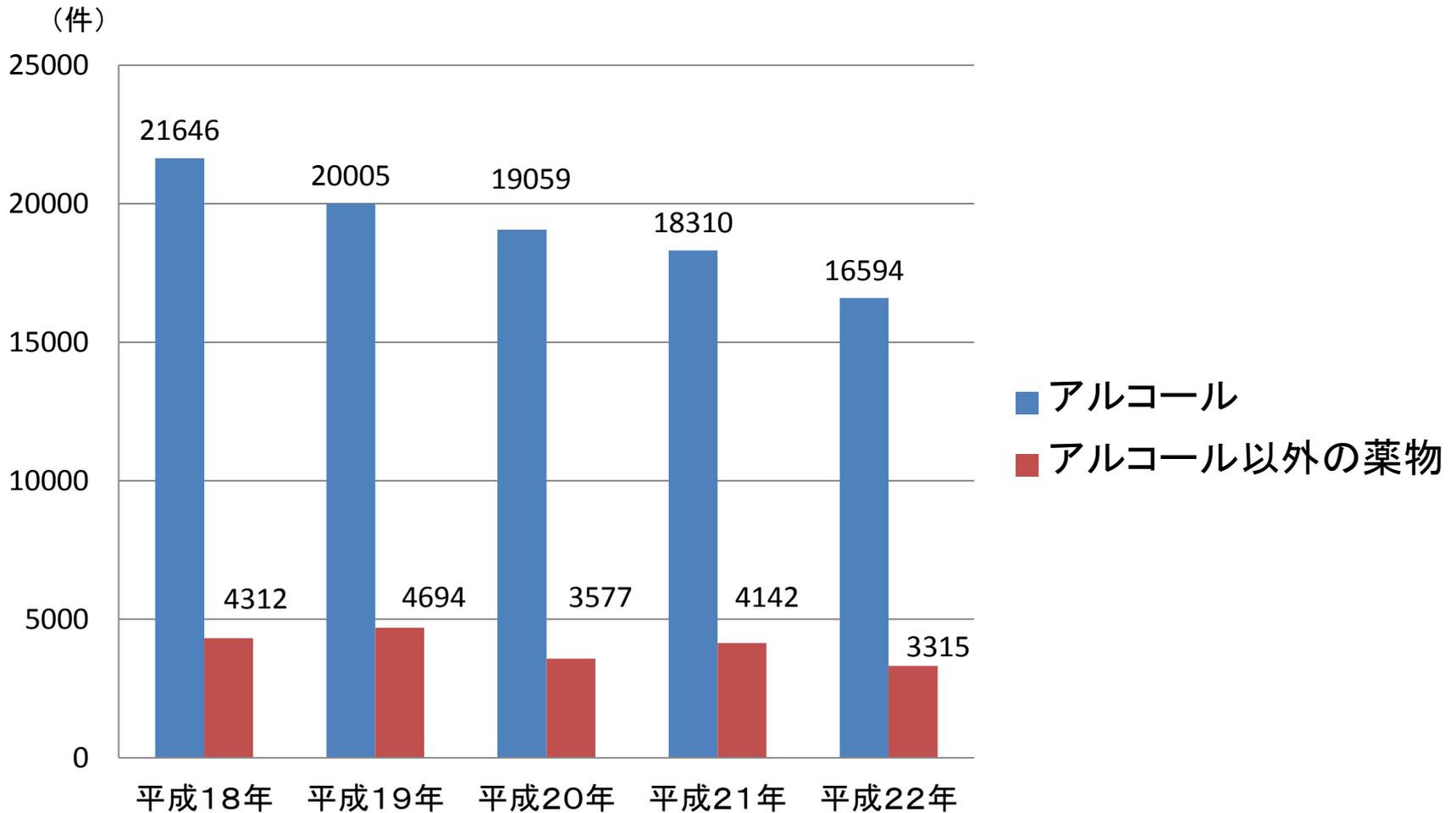
(ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン, 1993)

アルコール、その他の薬物使用による精神および行動の障害 総患者数



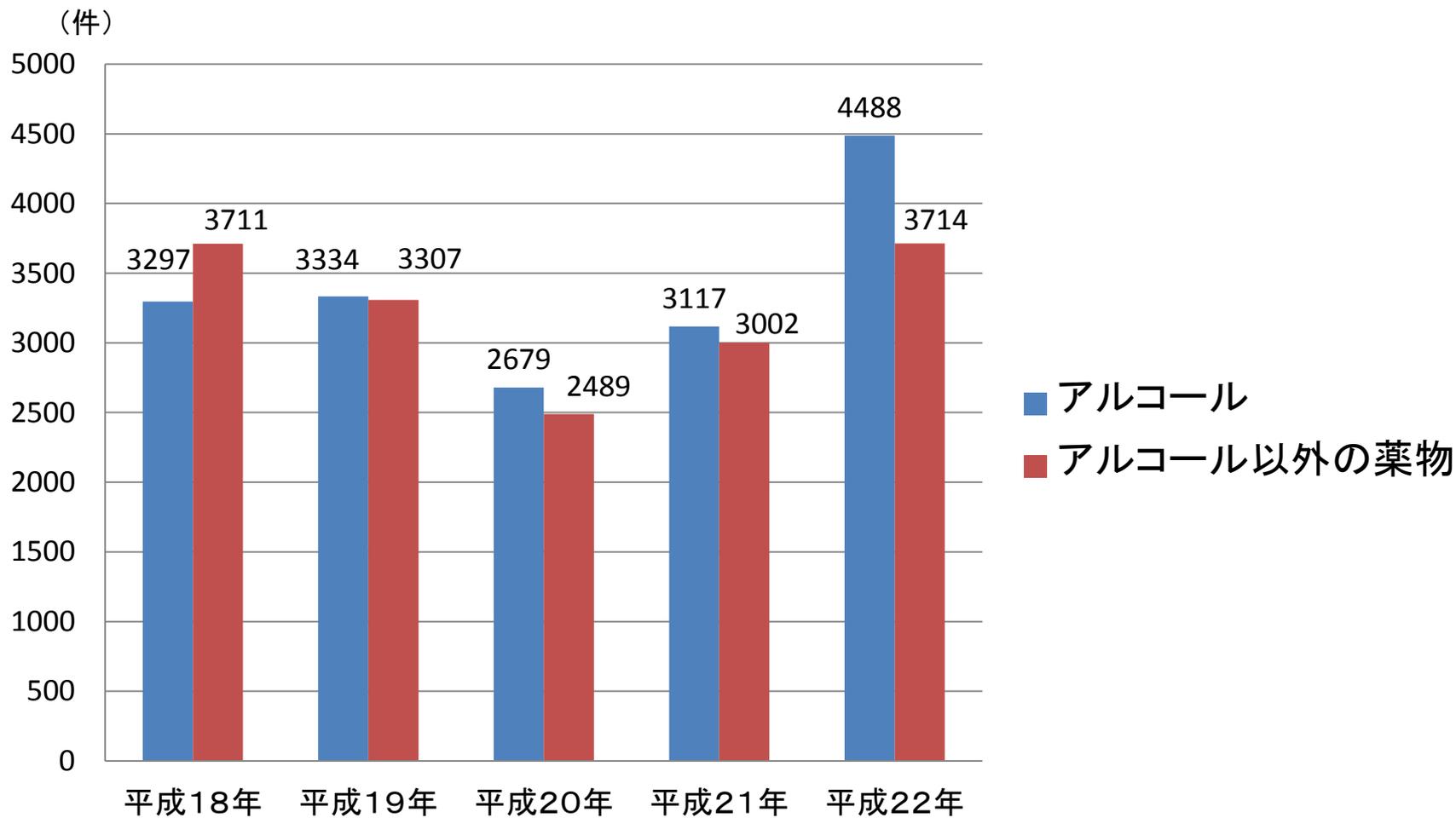
(出典:患者調査)

保健所における相談件数



(出典:地域保健・健康増進事業報告)

精神保健福祉センターにおける 相談件数



(出典:衛生行政報告例)